



齋藤家と 養育院

宮本孝一
老年学情報センター

櫻園通信 45. 平成 29 年 8 月

東京都健康長寿医療センター

養育院・渋沢記念コーナー

連絡先: 老年学情報センター

1872	明治 5	養育院開設				
1873	明治 6		上野本院	精神病院の分化		
1874	明治 7					
1875	明治 8					
1876	明治 9					
1877	明治 10					
1878	明治 11					
1879	明治 12		神田本院	癲狂院		
1880	明治 13					
1881	明治 14					
1882	明治 15					
1883	明治 16					
1884	明治 17		本所本院	巢鴨病院		
1885	明治 18					
1886	明治 19					
1887	明治 20					
1888	明治 21					
1889	明治 22	1890 渋沢栄一 養育院院長就任				
1890	明治 23					
1891	明治 24		大塚本院	児童収容施設の分化		
1892	明治 25					
1893	明治 26					
1894	明治 27					
1895	明治 28					
1896	明治 29					
1897	明治 30					
1898	明治 31					
1899	明治 32					
1900	明治 33					
1901	明治 34					
1902	明治 35					
1903	明治 36					
1904	明治 37					
1905	明治 38					
1906	明治 39					
1907	明治 40					
1908	明治 41					
1909	明治 42		巢鴨分院 (のちの石神井学園)	長崎		
1910	明治 43					
1911	明治 44					
1912	大正 元					
1913	大正 2					
1914	大正 3		松沢病院			
1915	大正 4					
1916	大正 5					
1917	大正 6					
1918	大正 7					
1919	大正 8					
1920	大正 9					
1921	大正 10					
1922	大正 11					
1923	大正 12	1923 関東大震災	板橋本院			
1924	大正 13					
1925	大正 14	1925 渋沢銅像建立				
1926	昭和 元					
1927	昭和 2					



学生芥川龍之介、 医師齋藤茂吉と出会う

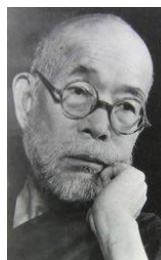
1919 年から作家芥川龍之介と歌人齋藤茂吉の交流が始まる。

しかしそれ以前に一度、養育院から分岐した病院（巢鴨病院）の中で 2 人は偶然出会っていた。



東京府巢鴨病院

齋藤茂吉



芥川龍之介



1910 東京帝大医科大卒業

1911 医科大付属病院と
巢鴨病院に勤務

巢鴨病院

1914 齋藤輝子と結婚

1916 齋藤茂太誕生

1917 付属病院と巢鴨病院辞職
長崎医学専門学校教授に

長崎

1921 欧州留学
留学

1910 第一高校入学 同期入学
に渋沢秀雄(渋沢栄一の
四男)、菊池寛がいる

1913 東京帝大に進学

1914 帝大学生だった芥川龍之
介、巢鴨病院と医科大付属
病院を見学 この時案内し
た医師が**茂吉**

1919 菊池寛と芥川龍之介が茂吉
の元に訪れ、交流開始

脳青
病院

1925 帰国 青山脳病院全焼

1926 青山脳病院再建

1927 茂吉青山脳病院の院長就任
齋藤宗吉(北杜夫)誕生

1926 神経衰弱で
青山脳病院に通院

1927 茂吉が処方した
睡眠薬を大量に
飲んで自殺

斎藤茂吉の弟

養育院附属病院の副院長に

1937	昭和	12
1938	昭和	13
1939	昭和	14
1940	昭和	15
1941	昭和	16
1942	昭和	17
1943	昭和	18
1944	昭和	19
1945	昭和	20
1946	昭和	21
1947	昭和	22
1948	昭和	23
1949	昭和	24
1950	昭和	25
1951	昭和	26
1952	昭和	27
1953	昭和	28
1954	昭和	29
1955	昭和	30
1956	昭和	31
1957	昭和	32
1958	昭和	33
1959	昭和	34
1960	昭和	35
1961	昭和	36
1962	昭和	37
1963	昭和	38
1964	昭和	39
1965	昭和	40
1966	昭和	41
1967	昭和	42
1968	昭和	43
1969	昭和	44
1970	昭和	45
1971	昭和	46
1972	昭和	47
1973	昭和	48
1974	昭和	49
1975	昭和	50
1976	昭和	51
1977	昭和	52
1978	昭和	53
1979	昭和	54
1980	昭和	55
1981	昭和	56
1982	昭和	57
1983	昭和	58
1984	昭和	59
1985	昭和	60
1986	昭和	61

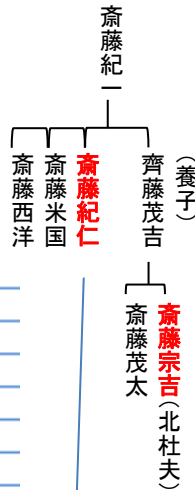
板橋本院

旧・養育院附属病院

東京都老人総合研究所

新・養育院附属病院

東京都老人医療センター



新・旧 養育院附属病院副院長 斎藤紀仁



写真:「鶴巻温泉病院 30 年尾歴史」より

http://www.sankikai.or.jp/tsurumaki/medical/2009/11/24/30th_history.pdf



「養育院史ノート 1972-4」当時の養育院施設の事業規模がわかる貴重な史料。養育院・渋沢記念コーナーで展示中。斎藤副院長はこの資料を使って、当時の職員に施設の歴史を説明しました。

北杜夫は、叔父（斎藤茂吉の弟）のアルバムをみて信州の旧制松本高校に進学。

北杜夫が憧れた叔父は、のちに（新旧）養育院附属病院の副院長になった。

北杜夫



1945 旧制松本高校入学

1948 東北大学医学部入学

私はいずれ自分が死ぬことを怖れてはいなかった。しかし憧れの白線帽をかぶり、中学とはおのずから別世界であろうせつかく入学できた松本高校に、一刻でもあれ入ってみてみたかった。私の叔父はかつて松高生で、当時は出征して日本にいかなかったが、その残されたアルバムを見ると、私の松本に対する憧れはいやがうえにもかきたてられて行った。残雪を戴く峨ケとした高山や一面のお花畑を背景に、いかにも颯爽とした黒マントを羽織った松高生の写真、それはまだ箱根くらいまでしか旅をしたことのない私にとって、さながら別天地のように思われた。それに加えて、当時昆虫マニアであり、信州には特産の珍種が沢山いた。（北杜夫「母の影」）

参考:竹内 正:松本時代の北杜夫 其の一『寂光』に映された父茂吉の陰影. 信州大学附属図書館研究 第6号 2016 .p33-77

現在		施設	
名称	種別	定員	所在地
本院	養老人ホーム	760	板橋区栄町 35番2号
	特別養護老人ホーム	300	
付属病院	医療	753	
老人総合研究所	研究所		
千葉分院	緊急施設	100	千葉県君津郡 袖ヶ浦町 代宿8
	援護施設(更生)	270	
	精薄児施設	320	
東村山分院	養老人ホーム	1,114	東村山市 青葉町1-2212
	軽老人ホーム	210	
	付属診療所	19	
伊豆山老人ホーム	養老人ホーム	120	熱海市伊豆山717
しまね園	軽老人ホーム	100	足立区島根 2丁目24番2号
ナザしろ園	〃	50	練馬区貨井町 2丁目900番の1
板橋高等看護学院	高等看護学院	300	板橋区 仲町1番1号